

来年1月6日から新連載

「俳人編集者の四季」

谷村 和典(鯛夢)さん
=室戸市出身=

版画家・小林敬生さんによる連載「響と樹と紙 そして人」は今回で終了しました。代わって新年1月6日からは、出版プロデューサーで俳人の谷村和典(俳号「谷村鯛夢」)さんによるエッセー「俳人編集者の四季」が始まります。
室戸市出身の谷村さんは東京で長く月刊誌の編集に携わり、今も出版をプロデュースする現役の編集者。いわば「世相ウォッチャー」であり、一方で俳諧を愛する風流人でもあります。うつろう時代と四季のあやを、時にスパイシーに、時にふんわりと包み込んで描きだしてくれたいと思います。

時代の変化と季節の移ろいと

筆者のこぼ

大学卒業後、東京の出版社で編集者生活をスタートさせたのは1972(昭和47)年のこと。以来40数年、女性誌と言われる月刊誌を中心に毎月毎月、締切だ、もう締切だという生活を続けてきた。最初に配属されたのが「婦人画報」という日本を代表する女性誌のひとつだったのは幸運だった。ここで名旅

館特集、京都特集、歌舞伎特集、ヨーロッパ・アメリカ取材をベアースとするファッション・アメリカ取材をベアースとするファッション・プロデューサーに転じた。ただ、雑誌も書籍も、現役編集者の基本スタンスは同じ。時代の変化をどうつかむか。このポイントが連載の中心となっていくだろう。その傍ら、俳句活動も長くなった。句は中学時代から詠んでいるが、鯛夢の俳号は編集者になってから。締切



たにむら・かずのり
(たにむら・たいむ)

1949(昭和24)年室戸市生まれ。追手前高校、同志社大学文学部卒。婦人画報社入社後、「婦人画報」を中心に「ヴァンサンカン・ウエディング」「トランタン」などで編集者、編集長。2004(平成16)年からフリーランスの出版プロデューサー。最近作に中村メイコ「大事なこと、ちょっと言わせてね」(大和書房)、五木ひろし「昭和歌謡黄金時代」(ベスト新書)など。俳句活動も長く、「炎環」同人、「馬酔木」会員、現代俳句協会会員、俳人協会会員。谷村鯛夢の著書に「胸に突き刺さる恋の句」(論創社)。東京都在住。追手前高校東京校友会幹事長。

◆「おじさん図鑑」
「おばさん事典」休みます。